

○ 愛知県 ちたぐんひがしうらちょう 知多郡 東 浦 町 (ぶどう)  
いしだ なおと いしだ すみこ  
石田 直人(59歳)・石田 素美子(59歳)

経営主の石田直人氏は、昭和 55 年に愛知県追進営農大学校（現愛知県立農業大学校）卒業後すぐに就農し、平成 6 年に経営移譲された。平成 14 年頃から、東浦町では栽培の少ない「巨峰（無核）」栽培の面積を増やし、現在、栽培面積は 270a（無加温ハウス 130a、露地 140a）である。栽培品種は、「巨峰（有核）」40%、「巨峰（無核）」29.6%、「デラウェア」3.7%などであり、労働力は、経営主、妻、後継者、常時雇用 3 名と臨時雇用 10 名である。

園地は、自宅に隣接した直売所を囲うように整備し、効率的な作業を行うことができる体制を整えている。ぶどうの魅力をもつ PR するためにぶどう狩りを実施している。宅配用の段ボール箱にはこだわりを持ち、宅配輸送向けの強度を高めた箱で発送している。

令和 2 年に家族経営協定を、後継者を加えて再締結して家族の役割分担を明確にしており、4～7 月は日曜日を定休日にするなど家族、従業員が働きやすい環境を整備している。平成元年に「無加温ハウス（3 月上旬被覆）」10a を導入して、お盆需要に対応できるようにし、その後も、盆需要増加の対応と病害に弱い欧州系品種を栽培するために全栽培面積の約半分の 130a を無加温ハウスにしている。また、平成 14 年から GA 1 回処理並びに平行整枝技術をいち早く導入し、「巨峰（無核）」栽培に取り組み、現在では、盆前に販売する無加温ハウスの「巨峰」は、消費者ニーズの高い「巨峰（無核）」のみとなっている。石田農園では、まとまった樹園地を有効利用し、複数品種を効率良く収穫するとともに、出荷期間中の人、物、設備の作業動線の問題点を解決し、効率的な作業環境を実現している。石田氏は、以前より省力化技術として GA 1 回処理技術に対する豊富な知見を有していることから、地域で新たに無核栽培に取り組む生産者には、1 回処理の特長や処理時のポイントについて、技術指導・アドバイスを行っている。